

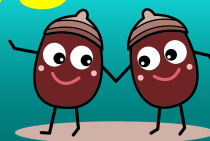


AUE News

2012年10月15日

第 49 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(10月16-31日)

● トピックス

- ・静岡県立島田高校生徒が本学見学
- ・平成24年度日本教育大学協会研究集会
- ・中野弘幸選手オリンピック出場報告会・第30回全日本大学女子駅伝壮行会

● 愛教人インタビュー

河村善也教授が第四紀学会学会賞受賞

● お知らせ・報告・投稿

- ・学生が物質・材料研究機構のインターンシップに参加
- ・平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択
- ・ラチャパット・スラタニー大学が本学訪問
- ・井ヶ谷地区役員との懇談会
- ・「Campus Now!第17号」を発行
- ・催しもの案内

行事予定(10/16-31)

- 16日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
評価委員会 (役員部局長会議終了後、学長室)
- 17日(水) 財務委員会 (13:30～ 第一会議室)
教員人事委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 18日(木) 安全衛生委員会 (16:40～ 第一会議室)
- 21日(日) 保護者懇談会 (10:00～ 講堂ほか)
- 23日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 25日(木) 共同教科開発学専攻連絡協議会 (16:45～ 人文情報棟114室)
- 30日(火) 経営協議会 (10:00～ 名鉄グランドホテル)

トピックス

静岡県立島田高校生徒が本学見学(10/5)

静岡県立島田高等学校の2年生42人と教員2人が10月5日(金)、本学を見学しました。午前7時30分に高校を出発し、2時間半の長旅に疲れも見せずに、到着後すぐ本部棟の第五会議室に移動し、大学の概要を紹介する映像を視聴しました。また、入試課、教務課、キャリア支援課と秘書広報課の職員から、配付資料に基づいて各課程、取得できる免許・資格や愛知県外の入学生への生活・学



習・部活・就職におけるサポート体制等について詳細な説明を受けました。

その後、職員の案内で、附属図書館、第一共通棟、ガラス工房等の学内施設を見学。第二福利施設では麺と丼等のメニューからお好みの種類を選び、美味しそうに食べていました。

「(美術実習棟近くの)オブジェが可愛い」「ガラス工房の100円ショップの作品をみたい」などと感想を述べました。

昼食後は自由見学の時間を利用し、「大学案内」を片手にキャンパスを楽しく見回る姿も見られました。

午後は数学教育の小谷健司教授による模擬授業「数学における論理」が行われ、日常の文を例にして否定文の理論をわかりやすく説明し、生徒は熱心に話し合いながら問題を解いていました。授業後、大学への進学や大学生活に夢を膨らませて、大学を後にしました。

平成 24 年度日本教育大学協会研究集会 (10/6)

10月6日(土)に開催校を鹿児島大学、会場をかごしま県民交流センターとして平成24年度日本教育大学協会研究集会が開催され、全国の教員養成系大学・学部から350人を超える多数の教職員や学生が参加しました。

研究集会では文部科学省高等教育局長の板東久美子氏が「これからの教員養成に求められるもの」をテーマに基調講演。続いて「これからの教員養成の在り方 中教審の議論をどう読み解くか」をテーマに活発な議論が行われました。教員養成の修士レベル化、教員になってからの学びの重要性に関する講演は、学生にとっても大変興味深いものでした。

分科会やポスターセッションでは教員養成に関する各大学の取組や最新の動向について紹介があり、本学の11件の発表中、宮川秀俊教授・附属学校部長による附属学校におけるESD(持続可能な開発のための教育)に関する取組の紹介などが関心を集めていました。私たちはポスター部門において日銀グランプリ提言に基づく金融教育の実践と後



続研究について発表し、また水野英雄准教授の発表の中でコメントをさせていただきました。たくさんの教育関係者の方々が金融教育に興味を示し、好意的な意見やご感想をいただく中で、教育界において、経済や金融に関する教育への確かなニーズがあることを確認しました。

また鹿児島や島根、広島といった他地域の教員を目指す学生との交流を通じて、自分たちが小さな枠にとらわれた見方をしていたこと、教員養成も地域によって違いがあるということを実感しました。また、さまざまな形で教育に携わる方々のお話を聞くことができたことはこの上なく良い刺激となりました。

(国際文化コース国際社会履修モデル4年 鵜飼遙佳、村井望)

中野弘幸選手オリンピック出場報告会・第30回全日本大学女子駅伝壮行会(10/14)

「中野弘幸選手オリンピック出場報告会・第30回全日本大学女子駅伝壮行会」が10月14日(日)午後、本学の第二福利施設で開催されました。本学陸上競技部OB会の主催で、OB、OG70人余と現役学生部員ら計約130人が参加。大学院2年の中野さんの世界を舞台にした活躍をたたえ、24年ぶりに女子駅伝対校選手権大会に出場するチームを激励する会で、卒業生、学生が交流するのは珍しいといい、ダブルの陸上部の快挙に世代を超えて盛り上がりました。



小林義孝OB会会長が「中野さんは異国で大活躍してくれた。女子も快挙。苦しさを乗り越えて精進した結果です。OB、現役が一堂に会して喜び合う会にしたい」とあいさつ。報告会では、OBの長男で、小学校1年生の岡戸柊馬君から花束を受け取った中野さんはスライドで、小学生時代からの自身の陸上のタイムや高校時代の恩師から学んだこと、大学で筒井清次郎教授らからもらった激励の言葉などを振り返り、「ヘッポコな僕でも五輪に出場することができた。より高みを目指してやれば、必ずいい走りはできるので、頑張ってもらいたい」と後輩に語りかけました。また、「五輪選手村の食堂は無料でいつでも食べ放題だったが、味はよくなかった。大歓声に包まれた五輪会場はそこにいるだけで涙が出るほど感激した。来年は小学校で先生をしながら世界の舞台に立てるよう頑張ります」と競技続行を宣言しました。



10月28日(日)仙台市で行われる女子駅伝は全国28チームが6区間、計38.6kmで覇を競う大会。壮行会では筒井教授が出場登録選手を紹介。登録選手10人のうち出席した保健体育選修4年の花岡紗耶さんから9人に記念品が贈呈され、花岡さんが「先輩が作ってくれた基盤の上に、部員がお互い理解し、協力できるよう気持ちを一つにすることに努めてきました。全国大会

は目的ではなく通過点のつもりで頑張りたい」と決意を述べた。お茶とお菓子で歓談した後、OBが「フレイ、フレイ愛教大」とエールを送り、万歳三唱で約2時間の会を締めくくりました。

愛教人インタビュー

河村善也教授が第四紀学会学会賞

理科教育講座の河村善也教授(地質学)が日本第四紀学会(正会員1349人、2012年7月末現在)の最高賞「日本第四紀学会学会賞」を受賞しました。東アジアから日本列島における古脊椎動物の時空分布に関する研究が同学会と日本における第四紀学発展へ顕著に貢献したことが認められての栄誉です。河村教授に喜びの声と、その研究の魅力を聞きました。

*

*

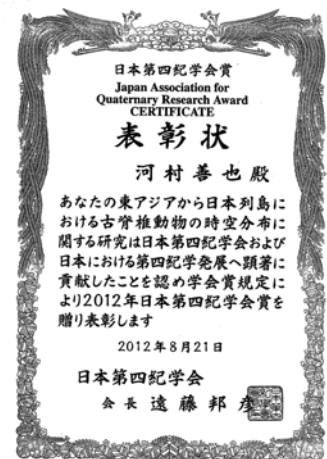
—日本第四紀学会学会賞、おめでとうございます。とは申し上げながら、実は「第四紀学」がよく分からないのですが…。不勉強ですいません。



第四紀というのは、地質年代では一番新しい時期で、260万年前から現代までをいいます。地球の歴史46億年で唯一人類が存在する時代で、私たちに一番関係している時代です。「第四紀学」は第四紀に関する総合的な研究を行う自然科学の学問分野です。現在を知るために、第四紀を知ることは大切。なぜなら、第四紀を調べると、過去を知るだけでなく、未来のことも予想ができるからです。

—地質学では一番新しい時代が、260万年から現在までとは…。スケールの大きさを感じさせられます。一体、どんな時代ですか。

地球の歴史上、特異な点が三つあります。①人類がいて、自然環境に影響を及ぼした時、②地球ではまれな寒い時代、つまり「氷河時代」。その前の時代は10℃ぐらい温かくて、この中部地方も今の台湾ぐらいの暖かさでした。恐竜がいた白亜紀、ジュラ紀なども温かくて、南極に氷がなかったですから。地球は約2、3億年サイクルで寒くなります。③単に寒いだけでなく、寒暖の差が厳しい。環境変化が著しい中で人間の進化がみられます。それらは地層と化石という



地球の歴史の“記録”から時代を区分することができるのです。そんな特徴がある「第四紀」の研究は他の時代より圧倒的に面白い。人間という特別な存在がいる時代はやはり面白いんです。記録もたくさん残っていますしね。ですから、第四紀学は地質学だけでなく、動植物、気候、地球物理、環境など、いろいろな分野にわたっているのも魅力的です。

—現代は地球温暖化などと言われているのに、実は氷河時代というのは驚きです。先生の研究内容を教えてください。

私はその時代には乳類がどういう移り変わりをしたのかを研究しています。中心になる地域は東アジアから日本にかけてですが、そのためには欧米の博物館にある資料や文献を調べて世界的な視野を持つ必要があります。例えば大英博物館などには大英帝国時代に収集した膨大な資料が保管されていますから、それらを知った上でないと。これまでに中国へ 25 回、台湾へ 10 回、韓国へ 5 回と周辺諸国に出かけて標本や資料を入手。いろいろな動物を比較して、発掘された地層の情報を集めます。例えば、これはシカの角、これは北京原人と同じ地層からでたサイの歯、これはサラブレッドだったウマの骨、この大きいのは登別のヒグマで、こっちがイノシシ、キツネ、ネズミ…こうして大量の資料を持っていないと研究ができないので、保管スペースの確保にとっても苦労します。



—こんなにたくさんの動物の標本に囲まれたのは初体験です。草食、肉食、雑食の食性で歯の形やあごの頑丈さが違って、まったく門外漢の私でも実際に標本に触れてみると面白いものですね。先生が地質学に興味を持たれたのはいつ頃ですか。

高校生のとき、特にきっかけはなかったですが、地質学の本を読んだり、野外や自然が好きでした。大学では地質学を専攻、大学院になってからはほ乳類の化石発掘をして、いろんな分類するのが面白くて、標本がどんどんたまる一方で（笑）。文献も大量に集め、現物と文献を合わせて…。こつこつと 30 年間やってきて、受賞はそれに対するご褒美でしょうか。いろいろな分野の人が評価してくれたのは嬉しいですね。

—学会賞受賞で、さらなる目標は。

特に変わることはありません。これまで通り研究を続けていきますよ。できれば大学が研究をサポートするようなことをしてくれればありがたい。10 月は沖縄、11 月は宮古島に出かけてきます。
(インタビュー：秘書広報課 渉外広報係長 小林則子)

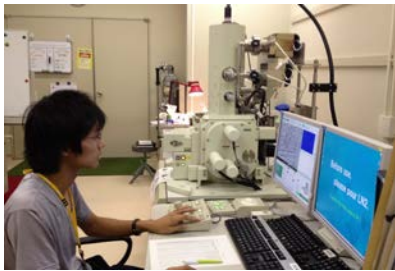
お知らせ・報告・投稿

学生が物質・材料研究機構のインターンシップに参加(報告)

本学の技術教育専攻の学生が 8 月 20 日 (月) から 9 月 4 日 (火) まで、物質・材料研究機構 (NIMS) のインターンシップに参加しました。このインターンシップ制度は、茨城県つくば市の「独立行政法人 物質・材料研究機構」が国内の高等専門学校、大学あるいは大学院に在籍中の学生に対して、物質・材料研究に従事する機会を提供するとともに、NIMS や連携大学院を広く知らしめる事を目的に実施されています。

今年度参加したのは、技術教育専攻 2 年生の山本慎洋君と相水謙伍君の 2 人です。技術教育講座の北村一浩が行っている形状記憶合金の研究でお世話になっている、先進高温材料ユニット・構造機能融合材料グループ、グループ長 御手洗容子博士の計らいで、学生の受け入れが実現しました。





研修課題は、「高温で形状記憶効果が現れるチタン-白金系の形状記憶合金の形状記憶効果について」で、材料の変態温度の評価、内部組織の観察及び機械的特性についての実習を行いました。NIMSには、最新鋭の測定装置が多数導入されていて、学生も、示差走査熱量計、X線回折装置、走査型電子顕微鏡、万能材料試験機などの装置を使い、実際に測定と材料特性の評価を行いました。

今回のインターンシップでは、さまざまな実験やレポートの作成をするとともに、研究室に在籍している外国人の研究者とも英語でディスカッションをするなど、貴重な体験が出来、大変有意義であったと聞いています。このインターンシップ制度は今後も継続されるようですので、技術教育専攻に限らず、他の選修・専攻の学生の積極的な応募を期待しています。

(技術教育 准教授 北村一浩)



平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」採択(報告)

本学が代表校として申請した平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」の取組である「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」が、9月3日(月)に採択されました。

本事業は、文部科学省が国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的に公募したもの(予算額:全体で30億円、補助金基準額:66,000千円以内/年、財政支援期間:最大5年間)で、全国各大学等から153件の申請があり、特に優れた49件の取組が採択されました。

本学が代表校として取り組む「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」は、「愛知教員養成コンソーシアム」を構成する33大学の中から、本学のほか、愛知県立大学、桜花学園大学、名古屋学芸大学、名城大学の5大学が連携・協力し、教員養成の高度化を既存の大学院修士課程との連携を図りながら、学士課程および修士課程における教員養成プログラムを構想します。

このプログラムでは、各大学の特徴を活かし各大学の独自性を保ちながら、一部を共同授業として展開し、教員養成としての質の保証を目指します。この中で愛知県総合教育センターや名古屋市教育センターと連携し、現職教員の研修プログラム(修士レベル)の確立を通して、愛知県内の小、中、高等学校教員の資質能力の向上改善を目指していきます。

(秘書広報課長 伊藤純一)

ラチャパット・スラタニー大学が本学訪問(報告)



9月14日(金)、タイのラチャパット・スラタニー大学から、副学長ほか15人が本学を訪問しました。同大学は、本学が2004年に協定を結んだタイのラチャパット9大学で形成するコンソーシアムの一つであり、学生交流をはじめ様々な学術交流活動が行われています。

訪問を記念して開催された懇談会では、開会にあたり松田正久学長があいさつ。同大学からの共同研究者を受け入れた経験を持つ松田学長からは、「今後、さまざまな交流プログラムを通じ、両大学また日本とタイの協力関係がより一層強化されることを願います」と期待の言葉が述べられました。

また、「海外大学における人事労務についての知識獲得」という同大学の今回の訪問目的に合

わせ、折出健二総務担当理事による講演も行われました。「愛知教育大学における人事労務管理」と題した講演では、本学における人事労務管理の方針や制度について詳しい説明が行われ、講演後には活発な質疑応答も行われました。

短時間ではありましたが、互いの大学について理解を深めることができ、今後のより活発な交流活動へ向けた良い機会となりました。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 宮内春菜)



井ヶ谷地区役員との懇談会(報告)

今年度の井ヶ谷地区役員との懇談会が9月26日(水)午後6時半から本学の第二福祉施設で開催されました。会には、野々山利維地区長、加藤賢次市議、黒川智明市議ら、本学側の松田正久学長はじめ理事、部課長ら、合わせて40人が出席しました。

松田学長が「地域防災・防犯、交通問題など様々な課題について地域の方と一緒に調整を進めていきたい」とあいさつ。野々山地区長は「災害時には若い力が必要であり是非ご協力いただきたい。また、先日井ヶ谷町にビオトープが完成し、今後の環境保護活動には大学の知的資源の協力をお願いしたい」と述べました。

続いて都築理事が本学と地域の関連情報を紹介するとともに、大学周辺の交通問題、町内清掃活動の積極参加、災害時避難場所の協力依頼など、事前に寄せられていた地区からの要望について大学として出来る限り協力したい旨、回答しました。

その後の意見交換では、老人クラブの中島正三会長より「井ヶ谷地区は世帯の高齢化が進んでおり、地震等の災害は大変不安。災害に対する予備知識を得るためにも、地域住民向けの講座を開く等、知的財産を惜しみなく提供していただき、開かれた大学を目指していただきたい」との意見が述べられました。

この後、懇親会に移り、和やかな雰囲気の中で歓談し、約1時間半の会を終了しました。

(教育創造開発機構運営課 地域連携センター 神谷知穂)



Campus Now!17号を発行(報告)

愛知教育大通信「Campus Now!第17号」が10月1日(月)に発行されました。



Campus Now は学生、教職員の結びつき、理解を深めることを目的に、毎年4月と10月に発行されています。学生と教職員が編集スタッフとなり「大学ニュース」「在学生の活躍」「社会人の先輩から愛教大の後輩へ」「新任教員の紹介」「研究室訪問」「ユニーク授業紹介」「部活・サークル紹介」「国際交流」など12項目をA5サイズ21ページに掲載。表紙を飾るのは、クラブ・サークル、クラスのユニフォーム姿の学生たちです。

今回は1万部を発行。学生支援課、附属図書館、生協などで学内配布中ですが、10月21日(日)の保護者懇談会や11月17日(土)の「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」の来場者、大学見学に訪れる高校生や保護者にも配布します。

どうぞ、最寄りの配布場所で手にとって、ご覧ください。

(秘書広報課 渉外広報係)

催しもの案内

◆愛知教育大学大学院教育実践研究科（教職大学院）体験授業

10月17日（水）13：30～14：40

第一共通棟 103 教室

内容：①「生きる勇気を与えることばの学習—伝統文化授業開発と言語の教育—」

講師・佐藤洋一教授（授業研究・評価論）

②「身近なものを教材化してみよう」

講師・萩原孝准教授（教科教育・社会科）

授業終了後に入試説明会を実施。

申し込み：（人数確認のため）所属、学年、名前を下記へ送信。当日参加も可。

support_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

問い合わせ：教務課教職大学院担当係 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 7 9

◆招へい教職員による講演会

10月22日（月）17：00～19：00

大学会館 2 階「中会議室」

講師：季愛琴氏（中国・南京師範大学）

郭鳳蘭氏（台湾・彰化師範大学）

ルスミヤティ氏（インドネシア・国立スラバヤ大学）

内容：各研究者の研究テーマと出身国の国・文化紹介などの発表を予定。

問い合わせ：国際交流センター TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 1 7 9

◆U n o セレクション「秋の夜長に万華鏡」

10月25日（木）～30日（火）10：00～17：00

刈谷駅前商店街内ギャラリー「スペース A q u a」

内容：美術教育・宇納一公特別教授による選抜企画。本学卒業生の石田千香子氏が制作した万華鏡・ガラスオブジェ・鏡の数々を展示。

28日（日）10：00～12：00、14：00～16：00にはワークショップ「鏡の不思議・美しい幾何学模様」を開催。対象は小学3年生～大人。定員10人。参加料1500円。

問い合わせ：刈谷駅前商店街振興組合 澤田さん TEL 0 5 6 6 ・ 2 1 ・ 1 1 0 9

◆教育創造開発機構「リベラル・アーツ型教育の展開」シンポジウム 2012

10月27日（土）13：00～17：00 参加無料

ウイंकあいち（愛知県産業労働センター：名古屋市中村区名駅 4-4-38）

11階 1103 会議室

テーマ：教員養成系大学におけるリベラル・アーツ

—教員養成の内容・方法・評価のあり方を考える—

内容：第1部 基調講演「学習成果を重視した教養教育とその評価—アルバーノ大学事例をもとに—」講演者・安藤輝次氏（関西大学文学部教授）

第2部 パネルディスカッション「新たな教養教育カリキュラム『4つのリテラシー』とジェネリックスキルの検討」ほか

対象：大学教職員・教育関係者・一般

定員：先着 100 人受付

申し込み方法など問い合わせ：教育創造開発機構運営課

TEL 0 5 6 6 - 2 6 - 2 7 1 7 ・ 2 7 1 8

◆映画「南極料理人」上映会 at アイ♥スペース

10月31日（水）13：30～16：00 入場無料

附属図書館 2階 アイ♥スペース

内容：映画上映の後、15：30頃から戸田茂准教授（理科教育）による南極トーク & 解説も。映画はヘッドホンを使用するため、先着30人。

問い合わせ：附属図書館電子資料担当 TEL 0566・26・2198

◆愛教大「読書カフェ」

11月1日（木）17：00～

第一共通棟 104 教室

学生・教職員参加型FD組織「あいこね」が主催。

テーマ：「働く意味って？—就活の現状を通して」

内容：テーマや本を題材にディスカッションする企画。今回の本は『おとなの進路教室。』山田スーニー著、『「自己分析」を自己分析する』香川めい著。「おとなの—」は各自用意、「自己分析—」はコピーを事前配布。

問い合わせは：あいこね E-mail：irisconande@gmail.com

◆講演会「外国人児童生徒支援を多角的に考える」

11月3日（土）13：00～16：45（受付12：30～） 参加無料

本部棟 3階 第五会議室

定員：120人

内容：第1部 13：10～14：50

講演「ブラジルでの自己教育体験と帰伯児童教育現状」

講師・日野寛幸氏（元サンパウロ州教育局主任などを歴任）

第2部 15：00～16：40

講演「個別の教育支援を必要とする子どもたち」

講師・佐藤和吉氏（愛知県小牧市立小牧南小学校 特別支援教室担任）

申し込み締め切り：10月21日（日）メールまたはファクスで。

問い合わせ：外国人児童生徒支援リソースルーム TEL 0566・26・2219

編集後記

10月28日に開催される「第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」に本学陸上部が24年ぶりに出場します。今年は、ロンドン五輪、国体、女子駅伝と、陸上部の活躍が目覚ましいです。その強さの秘訣は「自分で考える愛教大方式」。周囲に頼るのではなく、自分なりに考えることの大切さを痛感させられます。もちろん、その成果の陰には考える学生を育てた監督やコーチのサポートがあってこそで、取材の際にはお互いへの信頼がその場の空気となって感じられます。28日のレースは、彼女たちの日々の精進を思いながら、テレビの前で応援します。ガンバレ、愛教大女子駅伝チーム！（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二